

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

## 研修会記録

第 2 号

令和4年8月1日  
横浜市小学校教育研究会  
会長 徳江 武司  
横浜市小学校社会科研究会  
会長 加藤 和之  
同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

7月6日（水）

提案 金子 潤太郎 先生（上寺尾小）

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 山口 曉風 先生（小田小）

記録 森下 夏帆 先生（稲荷台小）

### 1 提案内容 単元名

単元名 「水っておくがふかい！」～鶴見配水池から見る水道局の取り組み～

### 2 提案者より

<視点①> 主体的な学びを実現するための、予想と見通しを生かした単元づくり

○身近な事実や実物をじっくりと捉えたことによる驚きによって、高い学習意欲をもつことができた。

○実際の相模湖の水と水道水を比べる中で、子どもはたくさんの驚きをもち、「本当のことを知りたい。」という思いをもつことができた。

○資料について、教師から一方的に出す場面が目立ってしまった。

○子どもたちの問いをもとにした学習展開にはならず、資料を教師から一方的に出す場面が目立ってしまい、子どもの主体的な学習とはやや離れるものになったしまった。

○ふり返りで学び方について書く児童が少なく、学びをつくるという意識が薄かった。

抽出児をおいていたが、本時では学び方についてふり返る児童がいなかった。単元全体を通して、学び方についての言及も少なく、学びをつくるという意識が薄かったように感じる。その時間の学習内容を大切にしながらも、学び方のよさを価値づけたり、考える時間を設けたりする中で、自分たちで学びをつくっていくという意識をもつことができるとより主体的な子どもの姿へとつながっていくと思った。

<視点②> 社会的事象の意味等に迫るために、協働的な学びを大切にした授業づくり

○学び方について考え、学び方のよさを捉える姿が見られた。

○実物を見たり、ネットや本で調べたりするなかで、様々な学び方を体験し、そのよさや課題点に気付く子どもの姿があった。これらをふり返ることで、学び方について考えること、学習を自分たちでつくることへつながり、主体的に学習に取り組むことができるようになると思った。

### 3 協議内容

#### <視点①>

- ・導入で実物を比較させることで子どもの関心が高まった。
- ・子どもに寄り添った問いであるとよかった。
- ・単元を見通す中で、人を登場させるとよかったのではないか。
- ・2系統も「なぜ」必要か話す必要があった。
- ・たくさんのお金→水は必要だから必要と思う子もいる。  
基準がわからないと多いのかわからない。
- ・問いの一つ一つの言葉が子どもに落ちているのか。
- ・資料の情報量が多かったため、すべての子どもが理解できたのか。
- ・Kさんの言葉→子どもの知りたいという気持ちが表れていたのか。

#### <視点②>

- ・資料を見る視点が必要であった。
- ・子どもの疑問が生まれやすい問いが必要。
- ・単元を見通す学習問題をもっと早いうちに立ててもよかったのではないか。
- ・子どもたちが、自分ごとになるような本気の学習問題が必要であった。
- ・本気の学習問題の「わざわざ」というのは子ども自身が実感できていたのか。

<講師の先生より>洋光台第一小学校 中村 智 校長先生

事実をじっくりと捉えた上で出てくる子どもの疑問を生かした単元づくりが大切。また、授業の終わりは「オープンエンド」にして、次の時間の学習問題を示すことで、子どもたちが本時の学習問題を解決しようという気持ちが生まれる。資料提示は、教師が視点を示しすぎず、子どもの予想を大切にす。難しい資料であったとしても教師の示し方を工夫することで子どもの理解につながる。

協働的な学びにおいて、普段からグループで話し合うような学習方法を取り入れる必要がある。また、子どもたちが自分も社会とつながっていると感じられるように、身近な材を生かすことも必要である。

文責 山口 暁風 (小田小学校)